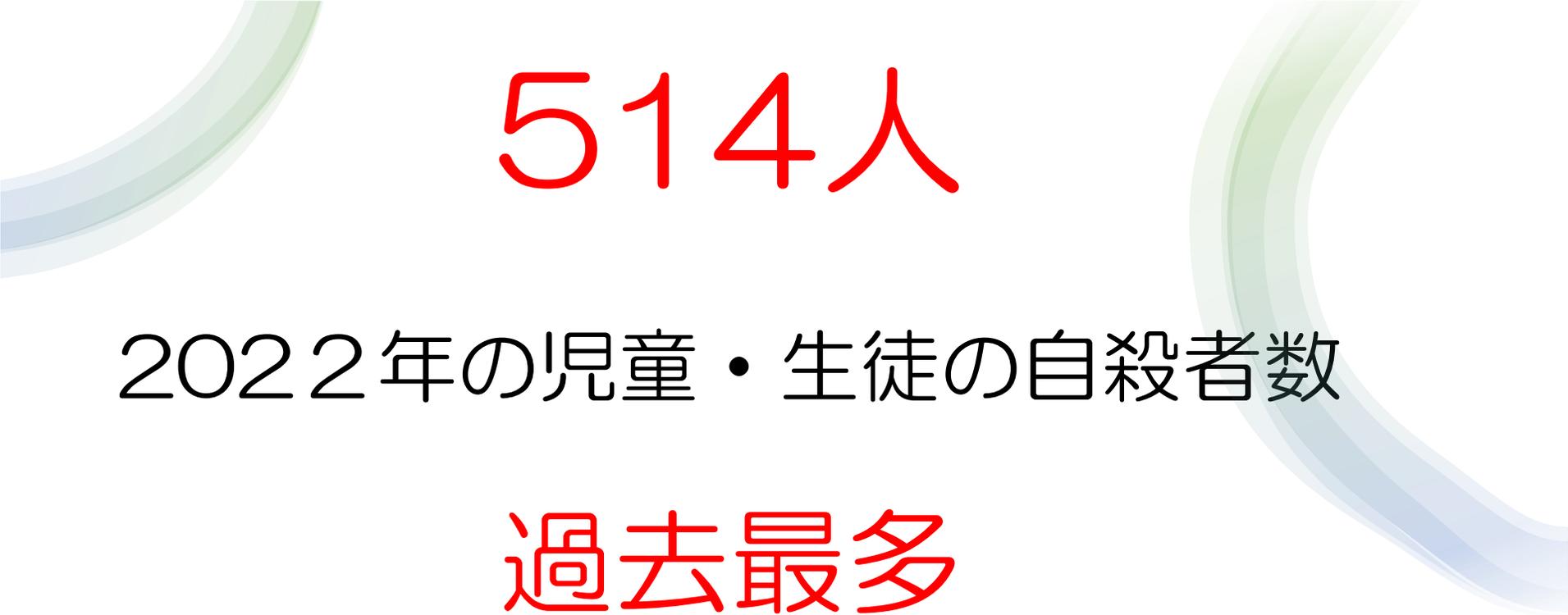


子どもの自死を防ぐ学校づくり

2024.8.5 木村泰子





514人

2022年の児童・生徒の自殺者数

過去最多
3年間で3倍に

厚生労働省公表 (2023.3.14)

文科省調査 (2023.10.4)

2022年度 小中の「不登校」

29万9049人

小 10万5113人

中 19万3936人

在籍児童生徒の3.2%が「不登校」
前年度より22.1%増加

学校という牢獄に通うということ

何も悪いことをしていないのに刑務所行きだと言われること

「みんなと同じようにして学校にいなさい」と言われること

ほとんどの人にとって学校が刑務所でないからこそ気軽に言えること

当事者からするとありのままの自分を真っ向から否定される場所

「人に迷惑をかけるな」「周りと同じようにしなさい」

ありのままの自分であることの罪を償えと言われていているような
暗くて重いプレッシャーを背負いながら、学校に通い続けることが

どれだけ難しいか そのストレスは

なにも学校に行かなくなっただけからといって消えるものでもなく

一人一人の意識から変わっていかない

しんどい子はいなくならないと思う 2022.11.20

学校という牢獄に通うということ

何も悪いことをしていないのに刑務所行きだと言われること

「みんなと同じようにして学校にいなさい」と言われること

ほとんどの人にとって学校が刑務所でないからこそ気軽に言えること

当事者からするとありのままの自分を真っ向から否定される場所

「人に迷惑をかけるな」「周りと同じようにしなさい」

ありのままの自分であることの罪を償えと言われていているような
暗くて重いプレッシャーを背負いながら、学校に通い続けることが

どれだけ難しいか **そのストレスは**

なにも学校に行かなくなっただけからといって消えるものでもなく

一人一人の意識から変わっていかない

しんどい子はいなくならないと思う 2022.11.20

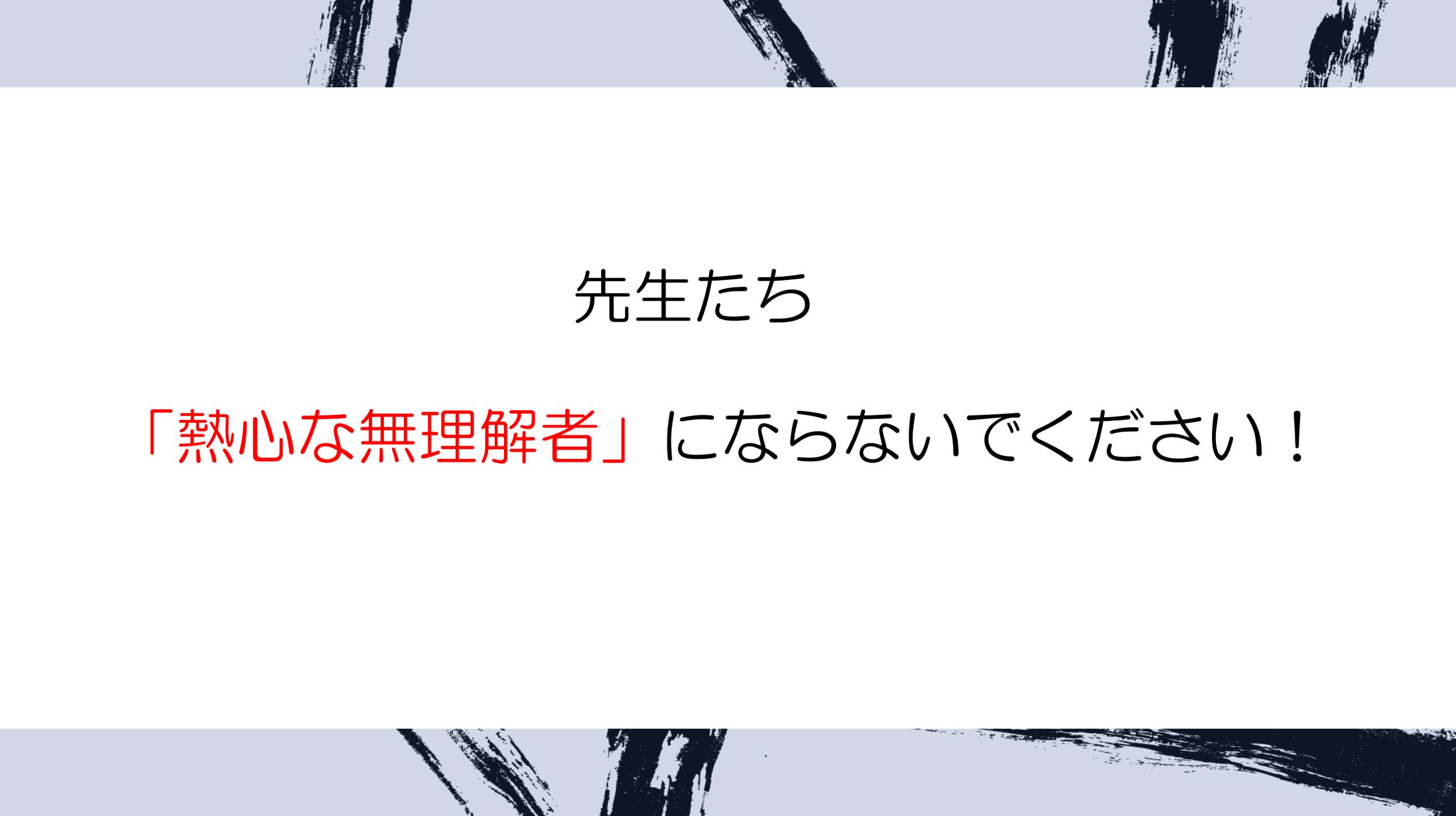
合理的配慮を受けながら合理的排除された子どもの事実

- 何をしてても怒られた
- 「特別な子」としてしか見てもらえなかった
- みんなといっしょに遊びたかったけどいつもいじめられた
- 自分は迷惑をかける悪い子なんだ
- 迷惑をかけるだけだから、どうせ学校に行ってもいやな思いをするだけだから行かない方がまし
- 大人なんて誰一人信用できない
- 学校は牢獄だ
- 特別支援学級は「独房」（不穩に孤立した部屋）
- 空気が吸えない

排除された子どもの周りの子どもたちの事実

- 自分も排除されないようにがんばる
- あの子は自分とは違う格下の存在＝「特別」
- 先生がいる前は我慢するが、本当はいいない方が平和だ
- すぐに切れるし、大声で叫ぶし、迷惑だ
- がんばろうとしないので、人の役に立たない
- 自分は「特別な子」でなくてよかった
- 先生がいつもその子を怒るので教室が怖くて学校に行けない
- みんながその子をいじめる**空気が苦しい**
- 学校に行く意味を見つけれられない

「指導」は一瞬で「暴力」に変わる



先生たち

「熱心な無理解者」にならないでください！

ある日の学校での取り返しのつかない事実

「お前死ねや」「お前死んでくれ 頼むわ」

何を言われてもずっと笑顔で聞いていた

「自分が死んだらそれでいいのか」

「わかった 死ぬわ」

その日の帰りの会で

「先生 こいつ今日死にます」

「死ぬなんて言うものではない」

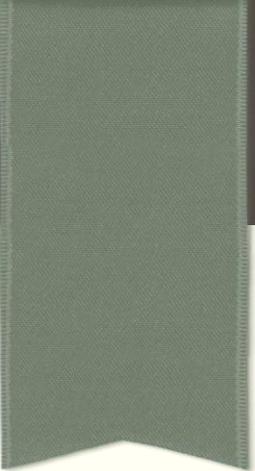
「死ぬというんやったらほんまに死ねるんか」

どうすれば
この子の自死を
防げたでしょうか



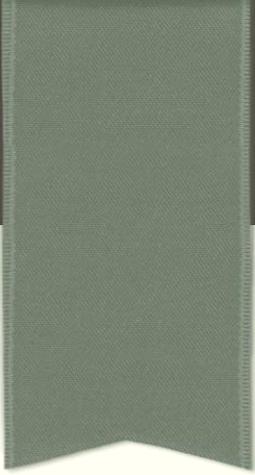
どうすればこの子の自死を防げたでしょうか

- 友だちが「死ね」と言わなかったら
- 担任がこんな「指導」をしなければ
- 周りの子どもが職員室に助けを求めに行っていたら
- この教室に担任以外の大人がいたら
- その瞬間にこの子が相談できる大人が学校に一人でもいたら



1 子どもと子どもをつなぐ

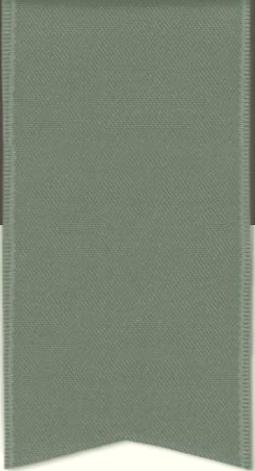
学校に「困る子」をつくらない
「ジャッジ」から「通訳」に
「指示・号令・命令」を「問いかけ」に



2 「大人のチーム力」で子どもを育む

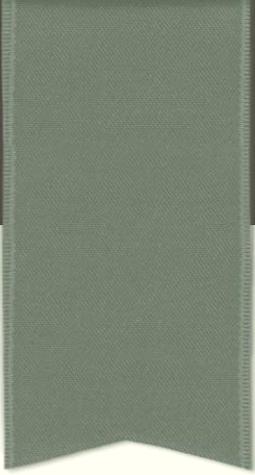
「指導」より「環境（空気）」を

「人の力を活用する力」をつける

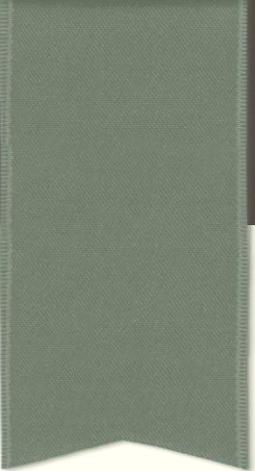


3 職員室はすべての人の「安全基地」

職員室にさえくればなんとかなる
そこには大人たちがいる
すべての人が弱みを吐き出せる職員室に



4 「スーツケース」から「ふるしき」の学校に
連携「Give & Take」から融合「Win & Wine」へ
すべての人が「地域の学校」をつくる当事者に



5 「すべての子どもの学習権を保障する」
学校づくりを問い続ける

学びの目的は「その子とその子らしく育つこと」
自分の学校は自分がつくる
決めるのは子どもです